



病院NEWS

no. 361
2014
07/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

「新病棟(南病棟)竣工記念式典について」

総務課



▲横見瀬病院長の式辞

医学部附属病院は、病院再開発事業の第一期工事である新病棟(南病棟)が3月末に竣工したことから、香川大学医学部附属病院新病棟(南病棟)竣工記念式典が5月18日(日)に開催されました。

記念式典当日は晴天に恵まれ、文部科学省、香川県、高松市、三木町、香川県内各医師会、関連医療機関などの方々と教職員の約120名が出席しました。

竣工した新病棟(南病棟)は、鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、地上8階地下1階の免震構造、延べ面積14,591.70㎡で、272床の病床を有しており、大規模災害時にも対応できる、安心の施設機能を兼ね備えています。

記念式典の式辞で横見瀬病院長から「新病棟(南病棟)工事に尽力頂いた方にお礼とともに、病院再開発で機能を充実し、地域に良質で高度な医療を提供できる病院を目指す。」と述べました。また、長尾学長から「この新病棟が地域の中核的な先進医療の場として良質な医療が提供され、附属病院の診療・教育・研究が高度化するものと期待する。」と挨拶がありました。続いて、来賓の平井文部科学省文教施設企画部計画課長、天雲香川県副知事、森下香川県医師会会長(代理出席:久米川香川県医師会副会長)から祝辞がありました。

その後、病院長から工事施工に尽力された方に感謝状が贈呈され、白神副病院長から新病棟(南病棟)の施設概要説明の後、同病棟入口前で代表者によるテープカットが行われました。式典に引き続き、新病棟(南病棟)の内覧会があり、1階の救命救急センター、3階の集中治療部、新設の心臓血管センター、病棟4階から望める3階屋上緑化や7階の無菌エリアをご案内しました。



▲南病棟玄関前でのテープカット

日本泌尿器科学会総会を主催！

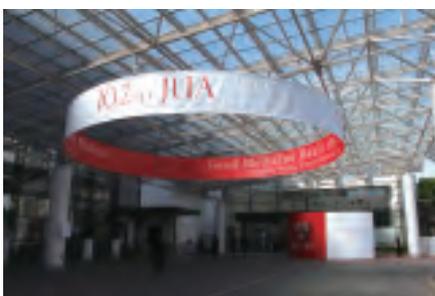
泌尿器・副腎・腎移植外科 准教授 杉元 幹史

泌尿器科教授、笥善行会長のもと4月23日から27日の5日間にわたり第102回日本泌尿器科学会総会を神戸市の国際会議場、ポートピアホテルほかにおいて開催いたしました。約8500名の会員を擁する泌尿器科学会の年次総会を主催するということはいわゆる新設医大としては初めての快挙であり、本当に光栄なことでした。テーマは「今日」を見つめ「明日」を創る～良医は国を癒す～」といたしました。

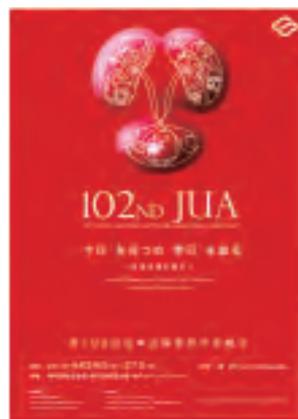
海外からも約30の一般演題での参加があり、学会参加者数は事前の予想を大幅に上回る約7,000名と近年にない大盛況でした。超高齢化社会を迎えた現在、われわれ泌尿器科医の役割を今一度見つめ直すきっかけになったものと思います。

会員懇親会で開催された各県対抗うどん早食い選手権、U-1グランプリも大好評でした(図)。また神戸での開催ということで、少しでも参加者の皆様に香川の雰囲気味わってもらおうと、うどんやあん餅雑煮、希少糖ドーナツなどの特産品を展示販売する”讃岐ミュージアム”を特設しました。こちらも大好評で、うどんをゆでるのが間に合わなかったほどです。

今回の学会は間違いなく泌尿器科学会史に残る素晴らしい大会だったと思います。この学会を通じて、われわれ香川大学泌尿器科の団結力・底力をあらためて全国にアピールできたものと確信しています。



▲学会会場



▲学会ポスター



▲U-1グランプリ

第23回鈴木泌尿器医学賞を受賞



▲賞状とメダル(左)高澤師長、(右)笥教授

兵庫県神戸市で、第102回日本泌尿器科学会総会が開催されました。本年度は学会会長を泌尿器・副腎・腎移植外科 診療科長である笥善行教授が務められ盛大に開催されました。

開会式とともに鈴木記念泌尿器医学賞基金より、第23回鈴木泌尿器医学賞授与式が執り行われました。この賞は我が国における泌尿器疾病者に対して医療および看護の分野において顕著な功績のある個人または団体を対象として設立され、鈴木金治泌尿器医学賞を笥先生が受賞されました。看護の部における鈴木看護福祉賞は、東病棟5階を代表して私が授賞式に参加させていただきました。

学会のスローガンは「今日」を見つめ「明日」を創る～良医は国を癒す～とされ、目の前にいる患者さんを治すだけでなく、泌尿器科医療はどのように変革していくべきかを考える機会にしたいという笥先生の思いが伝わってくる素晴らしい学会でした。

高齢化が急速に進む我が国において泌尿器系がんに罹患する人、また排尿障害で悩む高齢者は増加の一途をたどっています。医療はますます高度化しチーム医療の必要性が高まるばかりです。私たち泌尿器科疾患患者のケアにあたる看護師は更なるスキルアップやキャリアアップを図ると共に自己の役割を意識して取り組んでいかななくてはならないと感じました。今回の受賞をうけて、病棟で提供している看護の質を再評価し、またどのように高めていくことが必要かを考える機会となりました。今後も日々の患者さんに提供している看護を振り返ると共に病棟スタッフが明るくいきいきと働くことで、患者さんからの評価が高くなると、変化を実感できるように努力したいと思います。

看護部 師長 高澤 千鶴

加齢黄斑変性という病気を知っていますか？

眼科 教授 辻川 明孝

「見ようとするところが見えない」「人の顔が見にくい」「ものがゆがんで見える」このような症状があれば加齢黄斑変性かもしれません。初期には片目に起きることが多いので、両目で見ていると全く気がつかないこともよくあります。時々、片目で障子のサンなどを見ていることは早期発見に有効です。

30年くらい前の日本では加齢黄斑変性は珍しい病気でした。しかし、近年、ライフスタイルが欧米化するのに伴い、現在では日本人の中途失明原因の第4位を占めるにまで増加し、今後も増加することが見込まれています。加齢黄斑変性は完全に失明に至ることは少ない病気ですが、「見ようとするところが見えない」「本が読めない」といった症状がでできます。治療が遅れると視力の回復は期待できなくなります。しかも、約20%の患者さんで両目に起こってきますので、日常生活に与える影響は計り知れません。

以前は加齢黄斑変性には有効な治療法はありませんでした。しかし、現在は眼球への注射が非常に有効です。目薬の麻酔を行うだけで注射の痛みはほとんどありません。注射の治療法が導入されてから視力の改善が期待できるようになりました。しかし、加齢黄斑変性は完治することが少ない病気ですので、症状が落ち着いた後も定期受診が必要になります。再発が起こってきた場合には急いで注射をしないと回復が悪くなります。

加齢黄斑変性の原因は不明ですが、喫煙・食生活・日光などがリスクであることがよく知られています。それ以外に、遺伝的な要素が非常に強い病気であることが知られています。自覚症状があればまず専門医の診察を受けましょう。早期治療がとにもかくにも大事です。また、加齢黄斑変性にはなっていない段階で見つかったら、サプリメントの内服やライフスタイルの改善により予防に努めることが有効です。たばこは非常に悪い影響を与えますので、禁煙はぜひ行いたいですね。

毎日新聞「四国健康ナビ」H26.5.8掲載分を一部改稿いたしました。

カテーテル治療最前線

放射線診断科 助教(学内講師) 佐野村 隆行

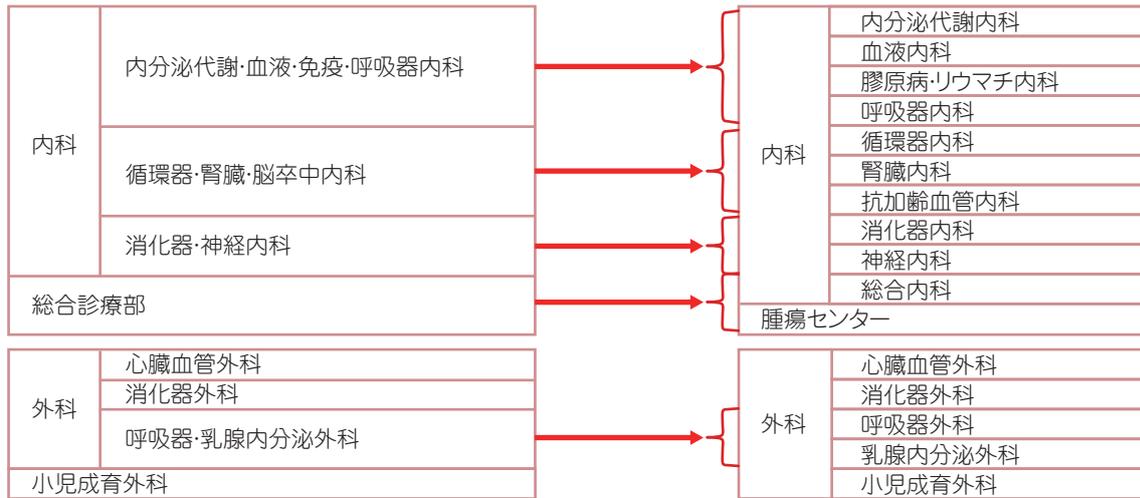
カテーテル治療と聞いてどのような病気か思い浮かぶでしょうか。狭心症や心筋梗塞などの心臓疾患や脳動脈瘤に対する治療はテレビや雑誌でもよく紹介されておりご存じの方も多いと思います。カテーテル治療はこれらの病気以外にもさまざまな臓器の疾患が対象となり現在適応はさらに拡大されています。カテーテルを用いた治療は大まかに①狭さく・閉塞した血管を拡張させる②病的な血管を閉塞させる③カテーテルを介して血管内に薬剤を注入する、という三種類に分類されます。いずれの治療法でもまず太ももの付け根やひじなどの血管からカテーテルを挿入しガイドワイヤーという細い針金のような器具を用いて目的の血管まで到達させます。ほとんどの場合局所麻酔で手技が可能で切開も1センチ程度と非常に小さく外科的手術に比べ身体への負担が少ない治療法です。例えば肝細胞がんに対する化学塞栓療法では肝細胞がんを栄養している肝動脈をカテーテルで選択して抗癌剤および血管塞栓物質を注入する治療法で栄養動脈の遮断による阻血効果と抗癌剤の長期滞留効果を意図としたものです。すべての肝細胞がん患者に適応となるわけではありませんが繰り返し治療を行うことも可能です。また近年使用するカテーテルの進歩もめざましく、通常のカテーテルの中に入るマイクロカテーテルと呼ばれる細径のカテーテルにより細く蛇行した血管にも挿入することが可能となりました。さらに特殊な先端形状を持ったマイクロカテーテルや、バルーンカテーテルと呼ばれる風船の付いたカテーテルを膨らまして正常血管に薬剤が入らないよう血流を遮断したのち薬剤を目的とする血管のみに注入する方法などこれまでカテーテル治療が困難であった患者さんにも治療を行えるようになりました。これらの器具および技術は肝細胞がん以外のカテーテル治療の際にも応用されより効果的で副作用の少ない治療が行えるようになっていきます。

毎日新聞「四国健康ナビ」H24.8.29掲載分を一部改稿いたしました。

診療科の再編について

総務課

南病棟の稼働にあわせて、6月28日から内科・外科を下表のとおり臓器・疾病別に細分化しました。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織（内視鏡検査で検査のために採取した組織等）又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究（研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究）に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究（過去の事象について調査する研究）の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~hospital/gairai/rinsyokenkyu.html>

イベントカレンダー H26.7~9月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
7/2 水	18:30~	外来診療棟1階 玄関ホール	第8回七夕コンサート	医事課	(087)891-2053
7/18 金	14:00~16:00	病院地下1階 患者図書室 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん相談支援センター	(087)891-2473
7/24 木 25 金	8:00~17:00	サンポートホール高松 高松かがわ国際会議場	第6回日本創傷外科学会総会・学術集会	形成外科・美容外科	(087)891-2198
7/31 木	16:00~18:00	社会福祉総合センター	香川県がん診療連携協議会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
8/2 土	9:40~16:30	高松国際ホテル	第13回緩和医療に関する集中セミナーin香川	腫瘍センター	(087)891-2075
8/3 日	12:00~16:00	サンポートホール高松	第7回四国リンパ浮腫治療懇話会リンパ浮腫市民公開講座	形成外科・美容外科	(087)891-2198
8/4 月	18:00~19:15	医学部管理棟4階会議室1	緩和ケア学習会・緩和ケアエキスパート研修	腫瘍センター	(087)891-2054
8/23 土	10:00~17:00	医学部附属病院	高校生手術体験セミナー	手術部	(087)891-2283
9/9 火	14:00~15:15	病院地下1階 患者図書室 オリーブの郷	肝臓病教室	地域連携室	(087)898-2417
9/19 金	14:00~16:00	病院地下1階 患者図書室 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん相談支援センター	(087)891-2473

平成
27年度

看護職員募集

看護師・助産師

80名募集

受付期間

平成26年7月1日(火)~
平成27年1月13日(火)

試験日

応募締切日

7月19日(土)

7月8日(火)

8月22日(金)

8月12日(火)

10月24日(金)

10月14日(火)

11月28日(金)

11月18日(火)

平成27年1月23日(金)

平成27年1月13日(火)

お問合せ先 087-891-2013 (医学部総務課人事係)

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、一條(経営)、岡田(総務)、
加藤(放射線)、白神(麻酔)、中妻(看護)、
濱本(外来)、芳地(薬剤)、松本(看護)、
村上(病棟)、安友(管理)、横井(情報)、
吉野(医事)

〔委員長 横見瀬病院長〕